



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/21 (月)				春分の日			米: パウエルFRB議長とアトランタ連銀総裁、講演
3/22 (火)	▲ 600	+ 14,000	+ 13,400	国債大量償還 国庫短期証券 発行・償還 (3M)			米: クリーブランド連銀総裁、講演
3/23 (水)	トン	+ 3,000	+ 3,000				日: 工作機械受注 (前年比) (2月) 米: 新築住宅販売件数 (2月) 欧: 消費者信頼感指数 (3月)
3/24 (木)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000				日: 片岡日銀審議委員挨拶、金融政策決定会合議事 要旨 (1月17・18日分) 欧: ECB経済報告、EU首脳会議 (25日まで)
3/25 (金)	▲ 1,000	+ 40,000	+ 39,000	年度末融資 流動性供給			米: NY連銀総裁講演、ミシガン大学消費者マインド指数 (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初532兆5,000億円から始まったものの、週を通して大きな変動はなく、534兆100億 (速報) で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初0.011%から始まり、積み最終日となる15日には0.008%まで上昇した。新積み期入り後も堅調な地合は継続し、16日の0.013%から日々上昇し、4日積みとなる18日には0.006%と2021年9月9日以来の高水準となった。
ターム物は1~2Wを中心に0.005%~0.001%のレンジで出合が散見された。
日本銀行は18日の金融政策決定会合にて、当面の金融政策の現状維持を決定した。
来週の主な予定は、国内で24日に片岡日銀審議委員挨拶や金融政策決定会合議事要旨 (1月17・18日分) の発表などがあり、海外では24日にEU首脳会合 (25日まで)、25日にNY連銀総裁講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

<レボ>

足許GC取引は週を通して0.09%~0.08%で取引された。積み期間が変わる16日受渡しや短国の発行が重なる22日受渡しでもレート水準に変化は見られなかった。SC取引は2年424~434回債、5年137~150回債、10年333~365回債、20年164~179回債、30年69~73回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.090 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆900億円で、週間償還額 (約1兆380億円) を若干上回った。発行市場は、例年は期末に向かって償還超となるタイミングであるが、足許ではエネルギー価格の上昇や海外情勢不安から、複数の企業で発行が見られたことで、残高は減少しづらかった。発行残高は先週末の26兆4,600億円から、17日時点で26兆2,594億円に減少した。発行レートは、発行期間3ヶ月程度の案件や、希少銘柄を中心に深いマイナスレートでの応札が見られた。一方、期内エンドの案件や、大型発行銘柄等は0%近傍での出合いとなった。
来週の週間償還額は、約1兆3,270億円となっている。発行市場は、決算期末に向けた有利子負債圧縮のため、償還超となると思われる。発行レートは、担保目的等の引受需要の強さから、希少銘柄や発行期間3M程度の期越え案件等はマイナスレートを中心とした出合いを予想する。

<TDB>

3月16日の1Y1066回債の入札は、最高落札利回り0.0552% (前回債0.0491%)、平均落札利回り0.0602% (前回債0.0551%) となり、3月17日の3M1067回債の入札は、最高落札利回り0.0752% (前回債0.0800%)、平均落札利回り0.0774% (前回債0.0875%) となった。来週は3月24日に6M、25日に3Mの入札がある。